

防災週間



大正12年(1923年)9月1日 関東大震災にちなんで、

8月30日から9月5日までが「防災週間」となっています。

家族・ご近所の方々と防災について考えてみましょう。

「巨大地震が発生したら」、台風が接近・上陸、大雨による洪水 になったら、とかいろいろなことを想定して考え、話し合ういい機 会だと思います。

大雨が予想されるとき、テレビなどで「**命を守る行動**」とよく言われています。

その「命を守る行動」って考えたことがありますか?

例えば、今、何もない状態の時に、今一度、家族、隣近所で話し合いをしてみたり、訓練をしてみたり、ハザードマップを作ってみてはどうでしょうか。

災害の種類

地震・洪水・土砂災害・火災

災害等からの避難について

災害の種類	緊急避難が必要な場合		
地震	役所等から避難指示・避難勧告が出された場合。 家屋が倒壊した時や倒壊する危険性のあるとき。 火災が発生したときや、隣家から延焼する危険性のあるとき。 津波の危険性のある地域や海岸等で、津波注意報・津波警報が発表されたとき。		
洪水	役所等から避難指示・避難勧告が出された場合。 洪水の危険性のある地域にお住まいで、大雨が降ったとき。		
土砂災害	役所等から避難指示・避難勧告が出された場合。 土砂災害の危険性のある地域にお住まいで、大雨が降ったときや普段 と変わった現象を発見したとき。		
火災	役所等(消防、警察)から避難指示・避難勧告が出された場合。 火災の規模が大きく、消火器での消火ができない場合。		

○避難の事前準備

災害時でもあわてず、必要な場合に速やかに避難を行うためには あらかじめ避難場所などの確認が必要です。



ます。避難が必要と判断した場合は、危険度に応じて3段階の避難情報を発令、広報車やサイレン、自主防災会(自治会)などによりみなさんに伝達します。

■ 避難情報の発表目安ととるべき行動(例)

	避難情報の種類	発表の目安	とるべき行動
低	ひなん じゅんびじょうほう 避難準備情報	事態の推移によっては避難の 勧告、指示等をおこなうことが 予想される場合。	いつでも避難が出来るように準備をはじめてください。 特に、避難行動に時間を要する方は、避難所などの安全な場所へ避難行動を開始してください。
危険度	ひなん かんこく 避難勧告	災害の発生する可能性が高まった場合。	身の安全を確保し、家庭、近所で助け合いながら避難をはじめてください。 浸水等が始まってからの避難は危険です。 状況に応じて、自宅の2階以上へ避難をしてください。
高	ชร์น ป ย 避難指示	状況が悪化し、避難すべき時期 が切迫した場合、又は災害が発 生し現場に残留者がある場合。	ただちに避難をしてください。 避難が困難だと思ったら、自宅の2階や近所の 頑丈で高い建物へ避難しましょう。

[※] 避難情報は、市が気象台や河川管理者、現場の情報等から状況に応じて発表する情報です。災害はいつ、どのような状態で発生するかわかりません。 そのため、状況によっては発表が遅れたり、みなさんに上手く届かない場面もあります。災害時は各自情報収集に努め、危険を感じたら自らが判断し、状況に応じた安全な避難行動をとってください。

○この表は避難情報の目安です。

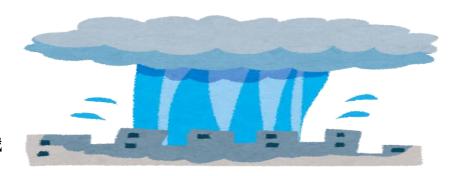
みなさんはいつの段階で避難をしますか?

避難について

☆家族・ご近所と協力する。単独行動はとらない。

☆車での避難は交通渋滞を招き、浸水すると動けなくなります。

(特別な事情がない限り、徒歩で避難しましょう)



豆知識

大人が1時間に歩く距離はだいたい4kmと言われています。

それが高齢者や子供など、さらに非常時であることを勘案すると、 非常時はその半分になります。それが暗闇、水に浸かっていれば 1/4、1時間に1kmとなります。

これを考えると、早い目の避難、「命を守る行動」をとらなくて はなりません。

高齢者、小さなお子さんのいる家庭など、避難準備情報の時には 避難を始めるのが望ましいと思います。

最後にもう一度、この平穏なときにこそ、家族・自治会で 「命を守る行動」を考えて、有事の際に直ぐに行動が取れる ような訓練をしてみてはどうでしょうか。

自分の命、家族の命、隣近所の人の命を守るのは

あなたです。